

磐城時報

石城新聞社 印刷部 電話 八四一
石城新聞社 印刷部 電話 八四一
石城新聞社 印刷部 電話 八四一

石城の縣議戰況

大平氏(勿來)が辭退し

民政黨候補決定

吉田氏遊説部長を辭退す

民政黨石城支部の縣議員候補と發表したので議場全くと混亂の
者豫選會は昨報の如く二十六日午後二時から平町南町俱樂部樓
上にて開いたが黨員百五十名出席、代議士比佐昌平氏推されて
議長席につき開會、劈頭若松幹
學長は去る二十四日福島市發行
の新聞紙中石城郡内民政黨に關
する記事を朗讀し

石城民政黨の領袖志賀啓之松
木田織江、草野三郎、赤津亦
太郎其他各氏は磐城州憲政會と
稱する一團と何等關係がなく
又應援せんとするものでもな
い。

と一般の誤解を解いた後豫選に
入る。吉田三郎氏は候補者の
公選論を主張し之に對し竹馬松
月氏は詮衡委員により決定する
事を主張し議論沸騰し漸やく喧
嘩の状を呈した折柄、吉田三
郎氏は

木村氏を推さんと

同志四倉座に會合

新妻盛氏外十四名を 交渉委員に擧ぐ

石城政友會の縣議員候補者は熱心に立候補せしめんと奔走
二十八日午後一時から平町聚樂してゐたが今日まで遂に出馬を
館に於て豫選會を開いた上決定肯んせず本人としては全然縣會
する筈で果して何人が公認候補議員たる事を断念してゐた處、
者として出馬するに至るであら 前記各町村民は遂に二十六日午
うかは混沌として知り得ないが後六時から四倉町四倉座に石城
既に噂に上り出馬確實と見られ 政友四倉同志會の名の下に集會
てゐるのは既報の如く植田町古 川傳一、飯野村山崎吉平、夏井
村鈴木辰三郎三氏でこの外平町 井上茂作、小名濱町小野晋平兩
氏も満々たる野心を持つのみな らずその周囲を繞る人々も全力
を擧げて出馬を慫慂してゐる状 態であるから兩氏が共に起つと
すれば候補者過剩の状態になる わけである。木村清治氏は大浦
大野、草野、四倉等郡北の人々 承諾を得るため交渉委員として

鷺氏

飽くまで辭退

民政黨の縣議員候補者は二十
六日豫選會を開き野崎滿藏、若
松三、鷺清吉の三氏に決定し
た事別項の通りであつて同派
は直ちに交渉委員五名をあげ三
氏に對し起否を交渉する事にな
つたが、平町野崎滿藏、赤井村
若松三の兩氏は當然承諾する
事明かであるけれども、植田
町鷺清吉氏は平素から候補者た
る事を辭退してゐた人で豫選會
當日も午前中まで鷺氏は俱樂部
に來てゐたのが、推されるらし
い空気を察知して午後の豫選會
には顔を出さなかつた等到底候
補者たる事は承諾すまいと見ら
れてゐる、飽くまで鷺氏が拒否
する場合は結局大平陸四郎氏
に代りて起るであらう事は明白
な事である。

炭礦の浮動票が 實に四千四百票

結局各候補者共 この方面に活躍せん

石城郡に於ける縣議員選舉の初値相場は四十五圓、上等五
運動は昨廿六日民政黨の豫選會十圓見當である、尙ほ昨二十六
に引續き明二十八日の政友會に日四倉兩市場が開場され石
に於ける豫選會後には愈々その城販賣利用組合尾形産業主事指
本舞臺に入るものと観られてゐる
が今次の選舉に當り労働黨及の専ら現金取引となし一般營業
及び日労働の唯一の地盤たる意味者の便宜を計る事になつたので
に於て一の新興勢力として其の非常に氣受けが好い。

細密に調査

第二回労働統計實地調査は十月
十日現在で全國一齊に行はれる
ので石城郡内の各炭礦では夫々
調査員を選任準備に着手したが
村内に十數ヶ所の炭礦を有する
内郷村では庶務主任田口淳三氏
を指導員として炭礦と共力して

平驛に於ける 貨物取扱ひ高

昨年と大差なし

浮動票の性質を帯びてゐるの
で随つて各候補者の各炭礦方面
に對する運動の手はかたなり猛烈
に延ばされるものと觀察されて
ゐる。

▲一月 發送一萬六千四百噸、
收入七千七百四十圓、到着一萬
六千九百八十八噸
▲二月 發送一萬七千七百六噸、
收入八千九百九十九圓、到着一萬
六千四百五十一噸
▲三月 發送二萬二千八百九十三噸、
收入一萬四千四百九十九圓、
▲四月 發送二萬二千六百噸、
收入八千五百二十二圓、到着一千三百
八十三噸

▲五月 發送二萬四千噸、
收入一萬八千四百一十一圓、
▲六月 發送四萬二千八百八十一噸、
收入一萬四千四百七十八圓、
▲七月 發送五萬五千噸、
收入二萬二千五百一十一圓

等々昨年と比較して發着共に大
差がない、而して例年ならば八
月の如き果實及び之に類似の各
貨物の集散があるに拘らず本年
の如きは更になく至つて閑散の
状態である。

石城の春繭

出廻り初む
石城郡に於ける秋蠶繭はそろそ
ろ出廻り初めたものもあるが目
下上簇中のもの其半數を占めて
ゐる中で最も出廻り早きは草野
村の廿四日で平町南市場に於け

民政派の 政談演說會

民政黨石城支部では二十七日午
後一時から平町平劇場にて政
談演說會を開いたが、辯士は
前内務次官川崎卓吉、衆議院
副議長小泉又次郎、代議士中
野正剛、比佐昌平

鷺氏

飽くまで辭退
結局大平氏か
民政黨の縣議員候補者は二十
六日豫選會を開き野崎滿藏、若
松三、鷺清吉の三氏に決定し
た事別項の通りであつて同派
は直ちに交渉委員五名をあげ三
氏に對し起否を交渉する事にな
つたが、平町野崎滿藏、赤井村
若松三の兩氏は當然承諾する
事明かであるけれども、植田
町鷺清吉氏は平素から候補者た
る事を辭退してゐた人で豫選會
當日も午前中まで鷺氏は俱樂部
に來てゐたのが、推されるらし
い空気を察知して午後の豫選會
には顔を出さなかつた等到底候
補者たる事は承諾すまいと見ら
れてゐる、飽くまで鷺氏が拒否
する場合は結局大平陸四郎氏
に代りて起るであらう事は明白
な事である。

水戸野球團

明日來平
水戸鐵道野球團一行は二十八日來平午前中は警中野球部と、午後にはオール平と夫々試合を舉行する筈であるが、各軍メンバー左の如し。

- 投捕 一二三遊右中左
- 水戸 岡崎山本因藤野泉又
- 水戸 富柏鶴根富後畑小
- 平 見野谷澤水田狩川坂
- 中 清小神賀清織猪助石
- 警 馬大籠坂先畑山瀬部

衛生技手交代

縣衛生技手平警察署勤務羽岡平三郎氏は平治療院長を命ぜられ、平細菌検査所主任狩野久郎氏は縣警察部衛生課勤務を、縣衛生技手高田力藏氏は平警察署勤務兼細菌検査所主任を命ぜられた。

尼子亭で遊覽團體募集

平町尼子亭では今回在郷軍人奉會山崎清三氏、平澤長豊崎治助氏等後援で本月十五日から三日間の豫定で日光、鹽原、笠間方面の遊覽團體を組織する筈で目下募集中であるが、定員は二百名、會費十五圓である。

牧原醫師逝く

平町田町眼科醫牧原修氏は久しく病氣中の處二十六日午後四時五分途に長逝した、葬儀は二十八日午後一時自宅出棺平町良善寺に於て執行する。

樂燕と虎丸出演

浪界の巨頭東家樂燕、龍甲齊虎丸の合同一座は愈々二十七日夜平町聚樂館で開演する事となつた。

同志諸君に謹告

來る八月二十八日午後一時から平町聚樂館に於て縣會議員候補者豫選會相關候間同志諸君多數御勸誘御出席被下度御通知に代り此段謹告候也

石城政友俱樂部

靴と運動具

素敵に安い!!!

大塚支店

平町田町電話七〇二番

飲食品防腐器

夏夏の御家庭になくしてはならぬ
専賣特許衛生試驗所證明
御飯はスエヌ、醬油はカヒヌ、酒はクサラヌ。
飲食物一切のクサリとカヒ止器 (一個三十錢)
平町四丁目 小野屋藥舖
電話一四四

降つても洋傘 照つても洋傘

絹張傘 貳圓五拾錢ヨリ
贈答品靴下半打入 壹圓也
ホワイトシャツ 壹圓也
海水浴着 八錢ヨリ
其他格安品洋山取揃ひであります。
夕涼の折ラジヲを聞きに御立寄り願ひます。

大谷時計病院

洋品部 電話九番

◎家庭になくしてならぬもの
寒暖計 体温計 各種
イマツ蠅取粉 小三〇(半ポンド)一〇〇
一ポンド二〇〇
度量衡指定販賣人 西村屋藥舖
計量器 電話三番

警油と味 喰
東京支店
電話下谷五七二番
振替東京六八三二二番

石川亭の柳川

た蔭様で開始以來非常な評判を蒙つてゐます。何卒御最良の程願ひ上げます。
田町(電話四三三番)

御一人前 四十錢
料理 石川亭 町平

父牧原修儀病氣中の處療養不相叶八月二十六日午後四時五十分死去仕候間此段謹告仕候
追而葬送の儀は二十八日午後一時自宅出棺良善寺に於て佛式により相營申候
昭和二年八月廿七日

長女 美智子
親戚總代 牧原修雄
友人總代 清水廣政

平町病院案内

外科一般 婦人科 耳鼻咽喉科	赤心堂病院 田町(電話四七五番)
外科 内科 皮膚科 淋病、微毒科	藤沼醫院 紺屋町(電話五七七番)
眼科	吉田眼科醫院 紺屋町(電話六八番)
内科 婦人科 小兒科 花柳病科	磐城病院 田町本通り(電話二四四番)
耳鼻咽喉科	大和田醫院 南町(電話一七〇番)
齒科	原齒科醫院 土橋通り(電話三一三番)
内科 外科 耳鼻咽喉科 花柳病科	高久病院 田町(電話一三五番)
内腸病科 梅毒科 淋病科	松村病院 南町(電話一〇七番)